

# 山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用  
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援  
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670700624
法人名	株式会社 コンパス
事業所名	グループホーム コスモス
訪問調査日	平成 21 年 2 月 20 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 1 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	670700624		
法人名	株式会社 コンパス		
事業所名	グループホーム コスモス		
所在地 (電話番号)	山形県鶴岡市茅原西茅原112-6 (電話) 0235-23-5858		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成21年2月20日	評価確定日	平成21年4月1日

## 【情報提供票より】(平成21年1月7日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15人, 非常勤 2人, 常勤換算	13.5人

### (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/改築
建物構造	木造平屋建て 造り	
	階建ての	階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

### (4) 利用者の概要(1月7日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低	67 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	川上医院 谷家歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「家族との絆」を大切に考え、家族の理解と協力も得ながら「里帰り支援」が行われており、それぞれの利用者の自宅に出向いて食事を楽しんだり、長年暮らしてきた地域の人たちと交流を楽しんだりしながら、懐かしい時間が過ごせる支援に取り組まれています。  
また、この1年間は特に「地域とホームとの関わり」(地域密着型)にも力を入れており、地域の老人クラブへの働きかけを積極的に行うこと、「忘年会」や「輪投げ」に参加するため公民館に出向くことなど、地域の中で共に暮らす一員として、幅広い交流を持とうとしている活動的なホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>一人ひとりの状態や状況を職員全員で把握しており、利用者の動きに合わせて、職員も一緒に外に出てみるなど、安全に配慮した対応がなされている。また、玄関の自動ドアについては、「電源を切り、手動でも開閉できる状態にしておく時間」を設けるようにした。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員間で分担して記入し、その後、計画作成者がまとめ内容を職員全員で話し合い自己評価を完成させている。また、職員会議でも話し合いを持ち、評価結果についての取り組みが具体的に進められている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回の頻度で開催されており、ホームでの様子、行事の予定、外部評価結果の報告、事故報告が話されている。また、運営推進会議の内容は全体会議でも話し合われ、サービスの向上にもつなげられている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時に意見や苦情を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。また、職員に意見や苦情を言ってくれる家族もおり、寄せられた意見等について全体会議で話し合い、その結果を家族に伝えるようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ボランティアの受け入れ、月1回の茶話会、忘年会、輪投げなど、町内会や老人クラブとの交流が盛んに行われており、来年度からはホーム便りの地域配布も行う予定である。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いきいき」「のびのび」「ゆうゆう」という理念に、職員で話し合った「地域との交流を持ちながら夢を持って暮らせる施設」を加えた事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念等を各ユニットの入口や事務所にも掲げて職員がいつでも見られるようにしており、日々のケアの中に理念が反映できるよう職員全員で取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアの受け入れ、月1回の茶話会、忘年会、輪投げなど、町内会や老人クラブとの交流が盛んに行われており、来年度からはホーム便りの地域配布も行う予定である。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員間で分担して記入し、その後、計画作成者がまとめ内容を職員全員で話し合い自己評価を完成させている。また、職員会議でも話し合いを持ち、評価結果についての取り組みが具体的に進められている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回の頻度で開催されており、ホームでの様子、行事の予定、外部評価結果の報告、事故報告が話されている。また、運営推進会議の内容は全体会議でも話し合われ、サービスの向上にもつなげられている。		

山形県 グループホーム「コスモス」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員の受け入れが毎月行われており、利用者サービスの向上につなげられるようにしている。また、利用者の家庭事情など考慮した個別対応については、市の職員とも話し合うことにより連携を深めてきている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態を書いたお便りを毎月送付しており、必要に応じて、電話連絡や面会時の報告がなされている。また、金銭管理については、出納帳のコピーが家族に毎月送られている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や苦情を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。また、職員に意見や苦情を言ってくれる家族もあり、寄せられた意見等について全体会議で話し合い、その結果を家族に伝えるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、利用者や家族からも理解が得られるよう話をしており、また、時間をかけた確実な引き継ぎを行うことにより、利用者へのダメージをできるだけ防ぐように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数を考慮して「認知症実践者講習」や「認知症の知識」などの研修が受けられるようにしている。また、毎月の全体会議で行う伝達研修、着任後1ヶ月以内に行う新任者研修にも取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会の交換研修に参加しており、ケアの方法や接遇について学び、自らのサービスの質の向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<b>【小規模多機能型居宅介護のみ】</b> ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを念頭において、昔からの知恵も聞きながら調理や慣わしを一緒に行うことにより、共に過ごし支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や暮らし方を利用者や家族に聞いたり、また、日ごろの利用者の表情や行動から、一人ひとりの思いや意向を把握し、個別ケアの中に取り入れるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮らせるよう本人や家族から意向を聞きながら、また、ケース会議のときに職員の気づきや意見を出し合いながら、利用者本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月ごとに行われており、また、重度化等の変化が見られた場合には、家族の意向やかかりつけ医の意見も聞きながら、話し合いを持って現状に即した介護計画を作成している。		

山形県 グループホーム「コスモス」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<b>【小規模多機能型居宅介護のみ】</b> ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医には、外出も兼ねて、職員が付き添い受診しており、専門医へは家族の協力も得て受診されている。また、緊急時には適切な医療が受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	家族やかかりつけ医とも話し合いを持って、重度化等に対する方針を職員全員で共有するようしており、また、その内容は介護計画書にも反映されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	利用者一人ひとりの誇りの尊重、日ごろの「声掛け」に注意しており、プライバシーを損ねるような場面があれば、職員間で話し合い、改善するようにしている。また、個人の記録等は決まった場所に置き、他の方の目に触れないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその日課はあるが、利用者の体調や精神面にも配慮して、食事の時間に幅を持たせたり、ドライブに出かけたりしながら、本人の希望に添った個別支援をしている。		

山形県 グループホーム「コスモス」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき、ゴマすり、下ごしらえなど、利用者にもできることは手伝ってもらいながら、一人ひとりの力を発揮できる場面を取り入れて、食事がより楽しみなものとなるようにしている。また、「グルメ・ツアー」を企画し、外出に出かけることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調を考慮しながら、希望にあわせた入浴支援が毎日行われている。また、入浴嫌いの方には「足浴」を勧めるなど、無理強いせずに、徐々に入浴できるように支援されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭き、モップ掃除、利用者が得意とするオルガン演奏の披露など、生活の中で役割を持ってもらい、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の状態、体調に配慮しながら、近隣のスーパーへの買い物やドライブ、神社や公民館に出掛けるなど、外出の機会を設けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	一人ひとりの状態や状況を職員全員で把握しており、利用者の動きに合わせて、職員も一緒に外に出てみるなど、安全に配慮した対応がなされている。また、玄関の自動ドアについては、「電源を切り、手動でも開閉できる状態にしておく時間」を設けるようにした。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間と夜間を想定した防災訓練は、6月と11月に消防署の協力を得ながら、事業所の職員によって行われている。また、災害時の地域住民の協力体制づくりについては、運営推進会議での働きかけが行われており、具体的な協力が得られるように、今後も働きかけを続けたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥、刻み、とろみ付けなど、利用者が摂取しやすいように配慮しながら食事が提供されている。また、食事や水分の摂取量はチェック表を用い、利用者一人ひとりについて把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると中庭があり、さまざまな植物も目にするのできる「憩いの空間」になっている。利用者が集まる食堂兼居間の天井が高いため明るい光が差し込み、また、心地よい音楽の流れる「やすらぎの空間」となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、家庭で使っていたダンス、ベット、オルガン、家族の写真などが持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるようになっている。		